

4. 現地調査結果

4.1 確認種数

現地調査において確認された調査項目ごとの確認種数は、表-2 に示すとおりでした。なお、参考として魚介類調査（魚類）、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫類等調査では、「日本産野生生物目録—本邦産野生動植物種の現状—（環境庁編）」に掲載されている種数を、鳥類調査では「日本産鳥類目録改訂第6版」に掲載されている種数を、植物調査では「植物目録 1987（環境庁自然保護局編）」に掲載されている種数を示してあります。

表-2 現地確認種数（平成 15 年 12 月 15 日現在）

調査項目	現地確認種数			「日本産野生生物目録」等掲載種数			
魚介類調査（魚類）	30 目	117 科	379 種	15 目	37 科	200 種	※1
	(17 目)	(65 科)	(239 種)				
底生動物調査	62 目	247 科	860 種	—	—	—	※2
植物調査		188 科	2,822 種		229 科	8,118 種	※3
鳥類調査	17 目	52 科	244 種	18 目	74 科	568 種	※4
両生類・	両生類	2 目	7 科	22 種	2 目	9 科	59 種
爬虫類・	爬虫類	2 目	7 科	16 種	2 目	14 科	87 種
哺乳類調査	哺乳類	7 目	18 科	53 種	8 目	26 科	188 種
陸上昆虫類等調査	28 目	449 科	5,963 種	37 目	976 科	33,220 種	※5

（注）種の計数方法について

- 各調査項目の種数は、以下のような分類群を基準に数えています。

魚類：種または亜種
 底生動物：種または亜種
 植物：種、亜種、変種、または品種
 鳥類：種
 両生類・爬虫類・哺乳類：種または亜種
 陸上昆虫類等：種または亜種

- 種、亜種、品種、変種まで同定されていない場合でも、同一の上位分類群に属する種類が確認されていない場合は、1種として数え、加算しています。

- ※1. 「日本産野生生物目録—本邦産野生動植物種の現状—（環境庁編）」（以下、日本産野生生物目録と呼ぶ）には、亜種を含む汽水・淡水魚類 200 種が掲載されています。「河川水辺の国勢調査」で対象としている魚類には、海産魚も含まれています。（ ）は、現地確認種のうち「日本産野生生物目録」に掲載されている種数等を示します。
- ※2. 「河川水辺の国勢調査」で対象としている底生動物の分類群には、日本産野生生物目録に掲載されていない分類群もあり、ここでは参考としての種数を掲載しませんでした。
- ※3. 「植物目録 1987（環境庁自然保護局編）」に掲載されている種数等を示しています。
- ※4. 日本産野生生物目録よりも新しい情報として、「日本産鳥類目録改訂第6版、2000」に掲載されている種数を掲載しています。ただし、外来種 26 種を含みます。
- ※5. 「河川水辺の国勢調査」で対象としている陸上昆虫類等調査に含まれる分類群は、昆虫綱とクモ綱です。このため、日本産野生生物目録の掲載種数も、昆虫綱とクモ綱の合計種数を掲載しました。

4.2 特定種の確認種数

現地調査において確認された調査項目ごとの確認種数のうち、特定種に該当する種数および確認種に占める特定種の割合は、表-3 に示すとおりでした。特定種の割合は、魚類 10.5%、底生動物3.4%、植物4.6%、鳥類13.5%、両生類 0.9%、爬虫類 6.3%、哺乳類 5.7%、陸上昆虫類等 0.6%でした。

表-3 特定種の確認種数 (平成 15 年 12 月 15 日現在)

調査項目	特定種確認種数	現地確認種数	現地確認種に対する割合
魚介類調査 (魚類)	6 目 10 科 25 種	17 目 65 科 239 種	10.5%
底生動物調査	11 目 17 科 29 種	62 目 247 科 860 種	3.4%
植物調査	54 科 126 種	188 科 2,822 種	4.5%
鳥類調査	10 目 17 科 33 種	17 目 52 科 244 種	13.5%
両生類・ 爬虫類	両生類 1 目 2 科 2 種 爬虫類 2 目 1 科 1 種	2 目 7 科 22 種 2 目 7 科 16 種	0.9% 6.3%
哺乳類調査	哺乳類 3 目 3 科 3 種	7 目 18 科 53 種	5.7%
陸上昆虫類等調査	7 目 25 科 38 種	28 目 449 科 5,963 種	0.6%

(注) 特定種について

本資料においては、次の文献のいずれかに該当する種や亜種を特定種としました。

- ・ 「文化財保護法」の特別天然記念物および天然記念物
- ・ 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種および緊急指定種
- ・ 環境省 (庁) 編「レッドリスト」掲載種 (2000: 昆虫類、無脊椎動物および陸淡水貝類)
- ・ 環境省 (庁) 編「日本の絶滅のおそれのある野生生物—レッドデータブック」掲載種 (2000: 植物および両生類・爬虫類、2002: 鳥類および哺乳類、2003: 魚類)

4.3 外来種の確認種数

現地調査において確認された調査項目ごとの確認種数のうち、外来種に該当する種数および確認種に占める外来種の割合は、表-4 に示すとおりでした。外来種の割合は魚類 6.3%、底生動物 2.0%、植物 14.2%、鳥類 4.1%、両生類 4.5%、爬虫類 6.3%、哺乳類 17.0%、陸上昆虫類等 0.7% でした。

表-4 外来種の確認種数 (平成 15 年 12 月 15 日現在)

調査項目	外来種確認種数	現地確認種数	現地確認種に対する割合
魚介類調査 (魚類)	6 目 8 科 15 種	17 目 65 科 239 種	6.3%
底生動物調査	9 目 12 科 17 種	62 目 247 科 860 種	2.0%
植物調査	54 科 402 種	188 科 2,822 種	14.2%
鳥類調査	4 目 5 科 10 種	17 目 55 科 244 種	4.1%
両生類・	両生類	2 目 7 科 22 種	4.5%
爬虫類・	爬虫類	2 目 7 科 16 種	6.3%
哺乳類調査	哺乳類	7 目 18 科 53 種	17.0%
陸上昆虫類等調査	7 目 22 科 40 種	28 目 449 科 5,963 種	0.7%

(注) 外来種の選定基準について

本資料における外来種とは、おおよそ明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物全てを指し、侵入以後に国内に定着した種であるか否かの判断は、困難な種があるため選定の際に考慮していません。また、外来種の選定には、資料 I.6 (26~27 ページ) および 28 ページに掲載した文献と学識者による意見を参考に行っています。